感染症の予防及びまん延防止のための指針

高槻赤十字訪問看護ステーション

1 基本方針

日本赤十字社が運用する訪問看護ステーション（以下「事業所」という。）は、利用者及び従業者等（以下「利用者等」という。）の安全確保のため、平常時から感染症の予防に十分に留意するとともに、感染症発生の際には、迅速に必要な措置を講じなければならない。そのために事業所は、感染症の原因の特定及びまん延防止に必要な措置を講じることができる体制を整備し運用できるよう本指針を定めるものである。

2 注意すべき主な感染症

事業所が予め対応策を検討しておくべき主な感染症は以下のとおり。

- (1) 利用者及び従業者にも感染が起り、媒介者となりうる感染症集団感染を起こす可能性がある感染症で、インフルエンザ、新型コロナウイルス、感染性胃腸炎（ノロウイルス感染症、腸管出血性大腸菌感染症等）、疥癬、結核等
- (2) 感染抵抗性の低下した人に発生しやすい感染症メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症（MRSA感染症）、緑膿菌感染症等
- (3) 血液、体液を介して感染する感染症肝炎（B型肝炎、C型肝炎）等

3 平常時の対策

- (1) 「感染対策委員会」（以下「委員会」という。）を設置・運営し、適正な感染予防・再発防止策等を整備する体制の構築に取り組む。なお、委員会は高槻赤十字病院に設置された「院内感染防止対策委員会」と一体的に運営する。
- (2) 事業所における委員会の運営責任者は管理者とし、当該者を以って「専任の感染対策を担当する者」（以下「担当者」という。）とする。
- (3) 職員の清潔の保持及び健康状態の管理に努め、特に、従事者が感染源となることを予防し、利用者および従事者を感染の危険から守ることを目的とした「感染対策指針」を整備する。また、「日常支援にかかる感染管理」として、以下の項目を定める。
 - ① 利用者の健康管理
 - ② 職員の健康管理
 - ③ 標準的な感染予防策
 - ④ 衛生管理

- (4) 職員教育を組織的に浸透させていくため、全職員を対象に定期的に年2回以上、かつ新規採用時に感染対策研修会を実施する。
- (5) 平時から実際に感染症が発生した場合を想定し、感染症発生時において、迅速に行動できるよう、発生時の対応を定めた指針に基づき、全職員を対象に年1回以上の「訓練(シミュレーション)」を定期的実施する。

4 感染症発生時の具体的対応

- (1) 利用者等の保護及び安全の確保等を最優先とし、迅速に次に掲げる措置を講じる。
 - ① 発生状況の把握
 - ② 感染拡大の防止
 - ③ 医療措置
 - ④ 院内感染管理室への報告
 - ⑤ 区市町村への報告
 - ⑥ 保健所及び医療機関との連携
- (2) 感染拡大の防止として、以下の防止策を実施する。
 - ① 生活空間・動線の区分け（ゾーニング・コホーティング）
 - ② 消毒
 - ③ ケアの実施内容・実施方法の確認
 - ④ 濃厚接触者への対応 など

5 指針の閲覧

「感染対策指針」は、求めに応じていつでも事業所内で閲覧できるようにする。またホームページ等にも公表し、利用者及び家族がいつでも自由に閲覧できるようにする。

附則

本指針は、令和6年3月1日から施行する